

文部科学省補助事業

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齡
期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備事業

成果報告書

宇土市教育委員会

1 目的

・宇土市における課題

- ①子の発達等に悩みを抱える保護者が就学前に子の学びの場を検討するため適切なアドバイス等を受けたいが、誰に聞いていいかわからない。
- ②早期支援が必要ではあるが家庭や福祉、教育、医療機関等の連携が取れていない。
- ③学校内で子の適切な学びの場を決定していく上で支援体制がうまく機能していない。

・課題を踏まえ設定した目的

- ①一本の窓口で対応できるよう学校内に合理的配慮協力員を配置する。
- ②園訪問事業*や就学时健診後の結果を踏まえ、関係機関が集まり具体的な支援の手立てなどについて話し合う。
- ③特別支援コーディネーターや養護教諭等との連携・調整を行う。

*就学前からの切れ目ない支援を目的として、子育て世代包括支援センター職員（心理相談員等）が宇土市内の幼稚園・保育園を訪問して、日ごろの園の様子等を伺い、就学前に準備しておく必要があることについては、関係機関と連携し、スムーズな就学のサポートを行う事業

・合理的配慮協力員配置校

宇土市立宇土小学校	児童数 7 4 3 人	学級数 2 8 学級
宇土市立花園小学校	児童数 6 4 8 人	学級数 2 7 学級

本市の大規模小学校 2 校に配置を行った。

児童数・学級数は令和 4 年 5 月 1 日現在

2 成果

・得られた成果

①学校相談窓口の一本化

特別支援に関して学校の体制において相談窓口が複数ありどこに問い合わせをしていいかわからない状況があった。合理的配慮協力員を相談窓口配置し、窓口を一本化することにより学校訪問や保護者から学校への問い合わせがスムーズとなった。

②園訪問で得られた情報や就学時健診の結果を踏まえ合理的配慮協力員を中心に学校関係者（校長・教頭・特別支援コーディネーター・養護教諭）や心理相談員、保健センターと連携しそれぞれの機関で持っている情報の共有を行うことができた。学校としても入学前に児童の特性を知ることができ入学に対する準備をスムーズにできるようになった。

③学校内での特別支援に関する調整役を担うことにより特別支援学級担任や特別支援コーディネーター、養護教諭等の業務改善を行うことができた。校内支援委員会等をスムーズに行うことにより子どもの適切な学びの場を選択する時間を確保することができた。

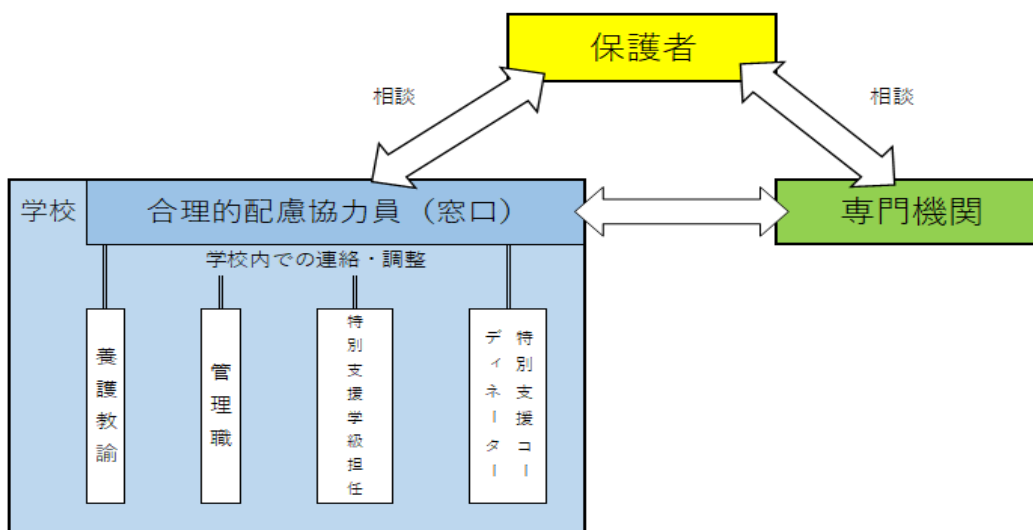
3 今後の取組み

- ・成果を踏まえた今後の取組み

今回の補助金を活用することにより宇土市立宇土小学校と宇土市立花園小学校において窓口の一本化や関係機関との連携、支援体制の推進を行うことができた。今後は、市内すべての学校に同様の協力員を配置できるよう取組を進めていきたいが、人材確保や予算の確保といった課題もあり継続した支援をお願いしたい。

4 事業内容

支援体制図



- ・学校窓口の一本化
- ・関係の専門機関との連携
- ・学校内での調整